

第 600 回 例 会

26年8月29日

本日のプログラム

- ・第600回記念例会(家族例会)
 - 時間 18:30 ~
 - 場所 ホテル京阪ユニバーサル・タワー
32階「トップオブ・ユニバーサル」

次回(9月5日)のプログラム

- ・ソング 「奉仕の理想」
- ・卓話 花谷 尚嗣 会員
- ・場所 ANAクラウンプラザホテル大阪 3階「飛鳥の間」
- ・第3回理事会 13:40~ 4階「橘の間」

9月の例会予定

- ◎5日 卓話 花谷 会員
- ◎12日 卓話 小山田 会員
- ◎19日 クラブフォーラム(青少年奉仕)
- ◎26日 卓話 笹田 会員会／ガバナー補佐訪問・クラブ協議会

先週(8月22日)の例会報告

■会長の時間

7月25日に最高裁の話をして、2、3回続けると言いましたが、8月1日は、別の事件の話をしました。そこで、今回は、最高裁の話に戻します。

私も、25年以上弁護士の仕事をしていますが、今年4月にはじめて最高裁の口頭弁論を経験しました。マスコミ狙いの事件等を除き、ほとんどの弁護士、裁判官、検察官も、最高裁の法廷に行くことはまずないと言えます。

事件の内容は割愛して、今日は最高裁の雰囲気の説明します。

最高裁小法廷は、中規模の映画館程度の広さです。ただ、天井は、通常の建物の2階半程度の高さがありました。備品も立派で、絨毯も10cm位の厚さでした。代理人席の椅子も、革張り、しかも重く、立つときに苦勞したほどでした。

法廷は、向かって正面に、裁判官席が5つあり、その下に書記官席が2つあります。上告人代理人席が向かって中央やや左側に5席、被上告人代理人席が向かってやや右側に5席あります。裁判官席と向かい合う位置にあり、下級審とは違います。

皆様がテレビで見ると、証人席の前にある小さな机はありません。これは、最高裁が事実認定をしない法律審だからです。最高裁では、刑事事件でも被告人は出頭しないので被告人席もありません。

私は、約束に従い30分前に出頭し、控室に通されました。控室では一人でした。そして、15分前に廷吏に案内されて法廷に入りました。

地裁等は、多数の事件をこなしますから、ざわついていることもあります。しかし、最高裁では、事件は1日一件程度とのことで、静寂につつまれています。

裁判の10分くらい前に、一人の廷吏が、傍聴席の前に立ち、直立不動で、注意事項を説明します。

裁判が始まる数分前、正面横のドアが開き、女性廷吏が前に進み出て、一礼した後、「まもなく、裁判が始まります。」と告げて、戻ります。

裁判は全てが儀式です。その手順は、前もって決めています。私にも、ほぼ、連日、最高裁書記官から電話があり、意見陳述をするか否かなど儀式の手順を決め、又、その説明もありました。その場の状況で臨機応変に対応することは許されないのです。

このような状況ですから、私の依頼者も「このような厳粛な場には来たことがない。」「これに勝る厳粛な場は皇居しか考えられない。」と感動していました。確かに、日本の三権のうち、国会はざわついた場であり、内閣は一般の人は入れません。従って、三権のうちでは、もっとも、厳粛な場が最高裁であることは間違っていないと思います。

【来客紹介】 2名

【出席報告】

26年8月22日(第599回例会)				
会員総数	出席免除会員	出席会員	欠席会員	出席率
35名	2名	23名	10名	69.7%

【幹事報告】

【メールBOXに配布】 1)第2回理事会報告

【メール送信】 1)第600回記念例会のご案内(再送) ⇒ 8/19 配信

2)大輪ゴルフ会のご案内(再送) ⇒ 8/19 配信

【回覧資料】 1)米山梅吉記念館 館報(2014秋)

秋山 千尋 =先日の新聞に、政府はコア技術を使って新商品、新製品を創出する個人ベンチャー思考の人に、年間650万円を2年間支給すると掲載されていました。組織の時代から個人生存の時代に移行されて来たようです。

久保田秀一 =家族でイタリア旅行に行ってきた。楽しかったですが、疲れが出てます。

森本 良嗣 =森長先生、今日はお忙しい処を例会にご参加頂いて、ありがとうございます。

職業奉仕委員会とコラボで、出前授業 成功すれば良いですネ。

斎藤 清貴 =例会が終わってから高野山へ来年「春のライラ」の下見に行きます。

鈴木 正明 =暑いです。 たまりません。

【SAA報告】	ニコニコ箱	本日計 5000円	今年度合計 3725097円
---------	-------	-----------	----------------

米山奨学会の表彰

次の方に米山特別功労法人の表彰と感謝状が贈られました

米山奨学会 特別寄付

《 米山特別功労法人 第1回 》 三和殖産株式会社（中根 三恵子 会員） 2014年4月30日

クラブフォーラム(8月22日)

会員増強の起点と悲願 会員増強委員会 吉田 正信 委員長

7月からの新年度を控えた6月14日豊島次期会長と次期増強担当の私吉田がYMCA土佐堀で開催された当地区の会員拡大増強セミナーに出席いたしました。その報告は後ほどとせず、今日このように在るわがクラブの会員増強の足跡、特徴的な起点を私なりに3つあげたいと思います。

一つ目は14年前の創設期トラブルによる退会者続出です。いかなる理由なのか知るところではないですが私はそんな最中に入会しました。まもなく本クラブの近藤さんが初代会長に就任され10数名での再スタートになりました。当然、存続というか生存の危機意識が会員増強となり、特に近藤、秋山両先輩の率先で早々に先の退会者数と変わらぬ否上回る新人の入会を実現しています。これがわがクラブ初の会員増強、すなわち存続の起点となりました。

二つ目は「メンバーは家族のようなもの」と言う考え、繰り返しての提唱です。これは秋山さんが会長の時(私は幹事でした)に言われた特に印象に残ったフレーズです。会員増強は人を増やすだけでなくメンバー同士の結びつきの強さ深さ(絆?)をも意味します。強さ深さの源泉は「メンバーは家族のようなもの」の中にあり、これを定理とするなら最大の退会防止策であるとあの時に教わったような気がします。精神的な教えですが第2の起点に相応しいと思っています。

最後の三つ目は若くして亡くなられたナイスガイ柴田さんが残し、森本さんが意思を継ぎ提唱するジャンプ40です。まだ実質20数名の時に会員数40名という当時突飛とも言える目標設定でありましたが、皆さんの懸命で地道な努力の結果、本年度の年初のプラスワンで36名まで詰め寄っています。あと4名の入会は容易ではありませんが少なくとも、次年度にまたがって、そうです本クラブの15周年には40名達成を悲願にして、皆さんに会員増強のご協力を重ねてお願いする次第です。

大阪ユニバーサルシティRC URL: <http://www.osaka-ucrc.org/> E-mail: ucrc@osaka-ucrc.org 創立: 2001年3月27日

事務局 〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-68 リーガロイヤルホテル401号室 TEL: 070-5020-6459

会長: 斎藤清貴 幹事: 三宅一郎 会報担当: 大橋高志 例会: 毎週 月曜日12:30~13:30 リーガロイヤルホテル

4つのテスト / 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか